

2020 年度事業報告

社会福祉法人かわち野福祉会
第 175 回 理事会

2020 年度は 2019 年度末近い 2 月より感染拡大始めた新型コロナウイルスに奔走された 1 年でした。感染症対策をはじめいろんな面での自粛が強いられた年となりました。基本予防策を中心に、職員や利用者への周知を掲示やニュースですすめ、アルコールやマスクの配布、大阪府の自主補助金かかり増しの対応や東大阪プレミアム商品券登録参加など積極的に進めてきました。東大阪福祉まつりは映画鑑賞会を企画しましたが、リスク回避し利用者、家族、職員の声を集めて冊子「コロナ禍における私たち」を作り各々が考える機会になりました。コロナ離職やリモート出勤などで家族が在宅されサービスの中止や、感染者、濃厚接触者といろんなケースで利用休止など少なからず影響は受けていますが、大きな減少にならないようそれぞれの現場で努力した結果が出ています。

法人全体のサービス活動収益計は 8 億 1 2 0 6 万円（前年比 1 0 0 . 5 %）で、経常減差額は 3 2 0 0 万円の剰余が出ました。サ高住開設した 2 0 1 5 年度より寄付金をのぞいての黒字は初めてとなります。サ高住加納の開設して 5 年目にして初めての家賃の改定や敷金の徴収を行い、特養ショート稼働率の向上や、ヘルパーステーションの編成などが要因と考えられます。また、人員不足のまま解消できないことが人件費を抑える結果にもなりました。この人員不足については担当者を置き、タイムリーに求人活動が進められるようにしていますが、入職者 3 6 名（うち常勤 4 名）、退職者 3 4 名（うち常勤 7 名、昨年 48 名）、離職率 15.5%（介護業界 15.4%）各現場で人不足が負担を増す結果となりました。今年度の離職者は長年勤めてきた管理者が 3 名離職しており後継者づくりの課題も急務となっています。働き方改革を進めるため業務改善や年休取得・時間外削減を進めるためにも欠員補充、増員を進めてまいります。

【特養ながせ】

令和 3 年 3 月末日現在、待機者 171 名、入所 60 名、新規入所 12 名/年、退所 11 名/年、稼働率の平均は 97.4%でした。入退院は前年度より減らすことができ、7 月、12 月にはゼロ件の月もありました。入院は延べ 28（前年度 51）名、平均入院日数 16.5（前年度 21.6）日、30 日を超える入院が 3（前年度 13）件でした。入院者数、30 日を超える入院者数とも前年度より大きく下回り、入院による空床日数は前年度と比較し 642 日と大きく減少しました。前年度取り組んだ、定期的に入院している病院への訪問はコロナ禍のため実施することができませんでしたが電話で確認する等の方法を継続し、看取りケアについては病院と連携し事前に情報シート作成し共有するという流れを作る事ができました。本来の施設の役割である看取りケアを多職種協働で取り組み継続していくことが課題です。皆で意識し、退去後の空き日数も減ってきました。定期的に入所判定会議は開催しており、待機者の優先順位を検討しています。またロングステイからの入所もありますが、まだ慣例にはなっていません。

慢性的な職員不足で、残業時間が増え、職員への負担も増えています。介助等で居室に入っているときにフロアーに職員が不在な場面も増えています。退職や長期休業等で特養内での介護職員異動

で対応することもありました。また、コロナ禍において清掃等の外部委託を中止し、別に雇用することで対応するなど試行錯誤繰り返しています。衛生材料等備品の単価高騰、在庫過多となっています。また、昨年度の「平成31年度当初予算における地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金事業について」のうち高齢者施設等の非常用自家発電整備事業に内示を受けていましたが、諸事情により今年度の工事となり、無事終了しています。他、設備機器の経年劣化で修繕費が増えてきています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
件数	59	60	60	60	60	62	60	60	60	61	60	60	60.167
日数	1711	1770	1757	1840	1812	1763	1822	1760	1846	1809	1639	1809	1778.2
稼働率	95.5%	95.1%	97.6%	98.9%	97.4%	97.9%	97.9%	97.7%	99.2%	97.2%	97.5%	97.2%	97.4%
入院者	4	4	3	0	3	2	2	3	0	3	1	2	2.25

【短期入所生活介護】

稼働率は、4月前半に退所後の利用者さんからPCR陽性が出たため4日間の営業休止し、200万円以上の収益不足となりました。また、この間にご利用中またはご利用予定だった利用者様にご迷惑をおかけしてしまいました。風評被害や利用予定のキャンセルなど影響も大きく、翌5月も影響を受けて利用減少しています。6月からは新規利用者が通常に戻り、ロングステイ利用者5名を維持できています。

人員不足の中常勤職員を増やしたことで、職員個々の力量も上がり、稼働率を意識し向上することができました。

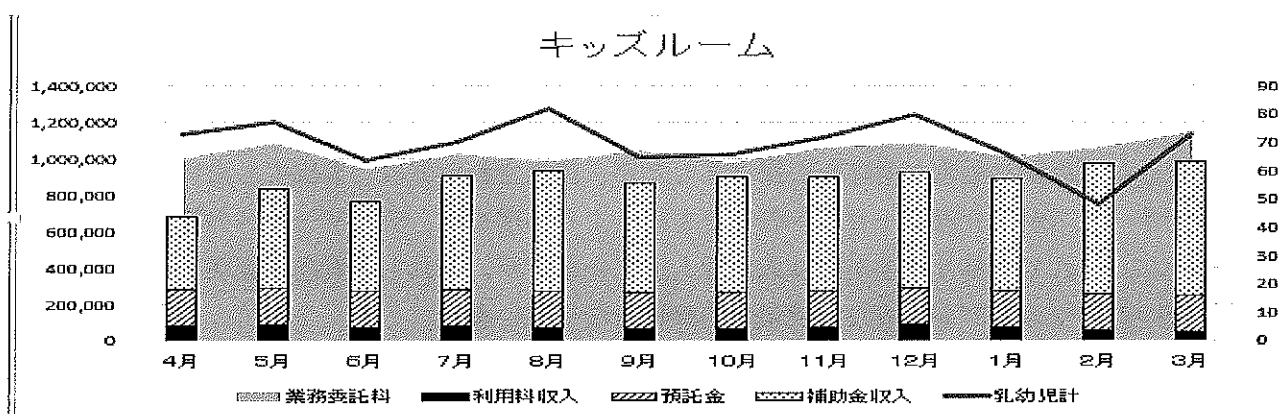
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規	3	5	4	5	5	5	2	4	2	4	2	4	3.7
利用者数	27	29	33	36	43	39	40	46	42	38	37	38	37
延件数	311	372	415	415	456	451	417	452	474	447	433	447	424
一日平均	10.4	12.0	13.8	13.4	14.7	15.0	13.5	15.1	15.3	14.4	15.5	14.4	14.0
稼働率	51.8%	60.0%	69.2%	66.9%	73.5%	75.2%	67.3%	75.3%	76.5%	72.1%	77.3%	72.1%	69.8%

【キッズルーム】

5者による運営会議を毎月開催し、保育運営状況等情報の共有、意見交換を行っています。昨年度に比べ、利用状況が若干向上（1日平均で2.6人から2.8人に）しましたが、育成協会からの運営補助金は前年度の7,458,160円に比べ7,302,700円(概算)と減り、収支においても▲76万円の悪化となり、今年度においても保育事業としては、年間▲292万円の赤字となっています。

保育士賃金の上昇(上昇率：2.99%)に伴う委託料の増額の要望も出されましたが、1年間見送って頂いています。かわちのキッズルーム存続のためにも、恒常的な赤字の脱却に向け、職員確保を含めた利用者確保の取り組み強化が引き続き求められるとともに、グループ法人からの預託金の増額いただくことで運営の継続ができるようになっていきます。

2020年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
開所日数	26	26	24	24	24	25	27	25	25	24	23	27	300
乳幼児計	73	77	64	70	82	65	66	72	80	66	48	73	836
乳幼児1日平均	2.8	3.0	2.7	2.9	3.4	2.6	2.4	2.9	3.2	2.8	2.1	2.8	2.8
利用料収入	80,200	88,500	71,100	79,500	70,800	65,900	64,000	69,500	86,200	72,300	58,600	48,100	854,700
預託金	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	200,000	2,400,000
業務委託料	1,001,352	1,085,920	946,000	1,029,160	989,736	1,049,048	979,616	1,059,960	1,084,292	1,012,880	1,060,576	1,146,112	12,444,652
補助金収入	400,300	544,570	491,770	626,290	659,890	599,300	631,840	627,940	642,340	620,740	719,710	738,010	7,302,700
											概算		



【ケアハウス】

昨年度まで埋まらなかった空き室が4月に4名、5月に1名入居し、30室満床となりました。12月末での1名退居まで、満床を維持。1月2月と1室空室状態が続きましたが、3月に1名入居となり年度内に再び満床にする事ができました。

入院者も少なく生活稼働率は95%以上を維持できていましたが、下半期にショートステイの利用や入院、退居が続き、生活稼働率が低下となりました。今年度はコロナウィルス対策の為、夏まつりを含め、行事やサークル活動のほとんどを中止となりました。また緊急事態宣言が発出され、外出や面会の制限を行い、入居者さんには不自由な生活となった1年でした。

職員体制は他部署への支援を継続してきましたが、厨房管理者の交代・職員の退職、生活相談員の異動があり、支援が必要な状態となったため、他部署からの支援を受け、運営する事ができました。

今年度の運営懇談会は5月と8月の2回しか行いう事ができませんでした。

令和2年度東大阪市地域介護・福祉空間整備等施設整備交付金のうち、災害時の給水設備の整備に手上げし、下水道が整備できました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入居室数	29	30	30	30	30	30	30	30	30	29	29	30
入居数	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
退居数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
空室	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
延日数	819	908	886	919	903	899	929	893	875	888	784	885
生活稼働率	91.0%	97.6%	98.4%	98.8%	97.0%	99.8%	99.8%	99.2%	94.0%	95.4%	93.3%	95.1%

【サ高住加納】

開設より毎月大きな赤字経営を脱却できずに5年経過。昨年よりプロジェクト会議を積み重ね、家賃の値上げ、後払いから前払いにし、敷金もいただくこと変更し、個別サービスから介護保険サービスを優先いただくよう個別サービスの料金見直しも行いました。コロナ禍で説明が不十分だったこともあり、当初予定していた新料金は7月からを8月からにスタートを日延べしました。分割や据え置きなど個別に柔軟な対応を心掛けましたが、退去された方は〇人出てしまいました。また、個別サービスから介護サービスへの移行も思うように進まず、デイサービスの経営改善に及んでいません。それでも毎月見学があり入居者も出ていますが、だれもが案内、説明できるようになっていないのでマニュアル作成など次年度の課題となっています。

職員体制を准正規職員2名体制にし、宿直職員の採用・パートの勤務時間を増やしたことにより安定を図りましたが、勤務日数の制限や職員自身の体調不良により、下半期は職員に無理をかけるシフトになってしまいました。入居者が快適に過ごせるよう、環境を整える業務の見直しや追加を行いました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居室数	66	67	65	66	62	63	61	62	60	59	60	60	751
入居者数	68	69	67	68	64	65	63	64	62	61	62	61	774
空室	9	8	10	9	13	12	14	13	15	16	15	14	148
生活稼働率	88.0%	89.3%	86.6%	88.0%	83.4%	84.0%	82.6%	82.6%	82.7%	81.5%	79.8%	79.1%	84.0%
延べ日数	1965	2043	1935	2026	1992	1929	1980	1911	1912	1882	1722	1890	1932

デイサービス

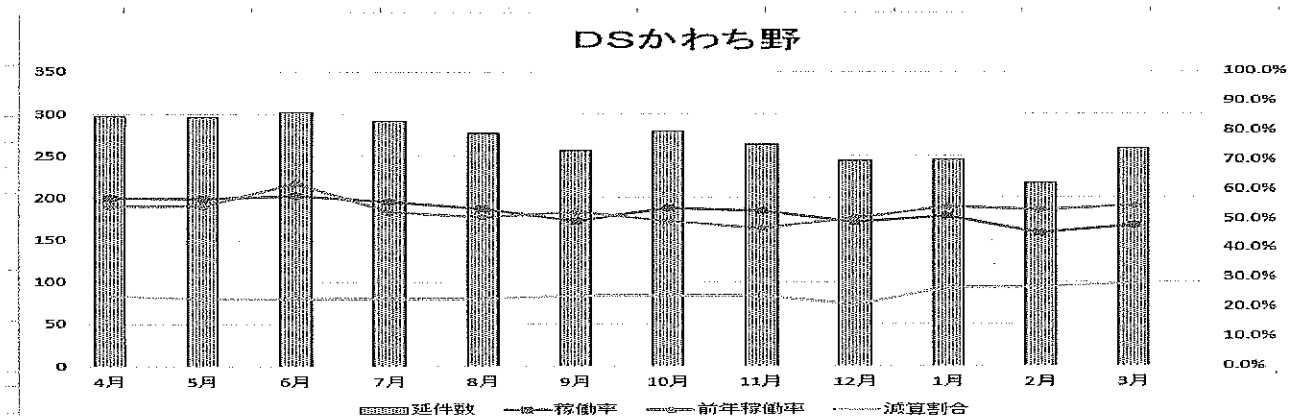
【デイサービスセンターかわち野】

前年度からの利用数減少は改善され、第一四半期は増加延件数増加し、6月には300件を超える事ができました。夏以降、職員の休職や退職などで体制が不安定になり、徐々に件数が低下し9月に稼働率50%を下回る月もありました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規				1				1		2	2		1.5
終了				1					1		1		1
実利用者数	25	26	26	26	26	25	25	25	24	26	26	25	25.4
延件数	298	297	302	291	277	256	280	264	244	245	217	259	269
一日平均	11.5	11.4	11.6	11.2	10.7	9.8	10.8	10.6	9.8	10.2	9.0	9.6	10.5
稼働率	57.3%	57.1%	58.1%	56.0%	53.3%	49.2%	53.8%	52.8%	48.8%	51.0%	45.2%	48.0%	52.6%
減算割合	24.0%	23.0%	23.0%	23.0%	23.0%	24.0%	24.0%	24.0%	20.8%	26.9%	26.9%	28.0%	24.2%

新規件数が終了件数を上回っていますが、長期入院者が相次ぎ、実利用者数増とはなりません。年が変わってからも入院者があり、2月実績は稼働率45%まで低下。

職員体制が准正規職員・正規職員の休職・退職、管理者交代があり、引継ぎに不十分な点がありましたが、大きな事故や問題はなく、運営する事ができました。コロナウイルス感染症対策を徹底する為に検温など一部業務内容の変更を行いました。また、居宅への実績報告もFAXで行っていましたが、下半期から営業を兼ねた事業所訪問に変更。少しずつですが、新規相談が増えてきました。通年の行事だけではなく、クッキングレクなどに取り組み、利用者様に満足していただけたと思います。



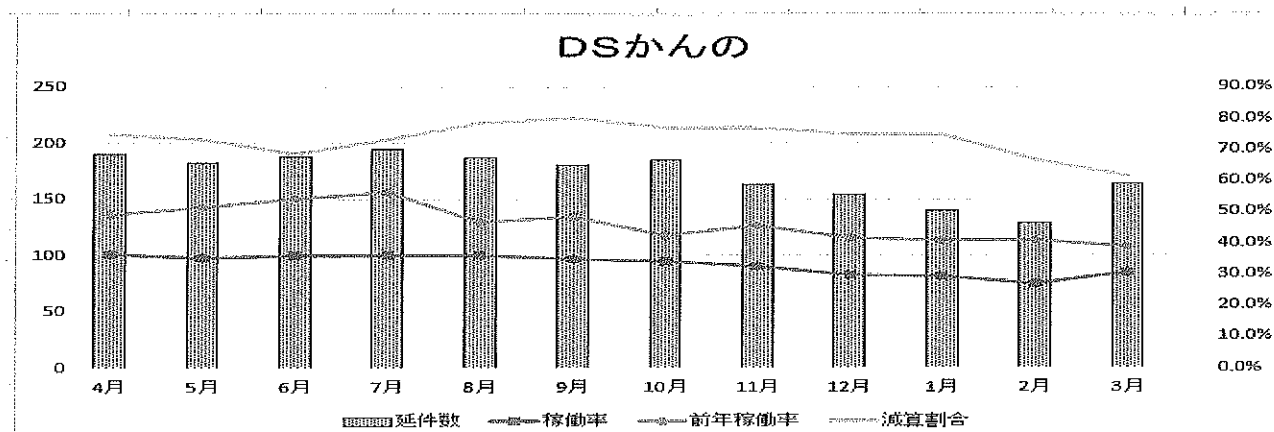
【デイサービスセンターかんの】

稼働率を上げることができず3割を切る月もありました。新入居者の利用はなく、終了者のうちサ高住入居者の利用終了(転居・死亡・体調不良)が4名ありました。新規利用者数よりも、終了者数が上回り、前年度よりさらに収益に大きな影響が出ました。

サ高住入居者の利用に頼った運営が続き、そのサ高住の新規入所者は介護サービスを必要としない方、リハビリ希望の方がほとんどだったため、利用につながりませんでした。今年度の課題としていたDMの作成やチラシ配布に取り組む事が遅れ、かんのの特色を見出すこと、一日のスケジュールを計画しなおすことも対応が遅れました。年明けから足の体操を増やす・ラジオ体操をするなど、「元気に歩けること」を目標とした取り組みを始めました。

職員を採用し体制の安定を図りましたが、ケガや家の事情で急な休みが多くなり、体制を安定させることが難しく、全てにおいて余力がありませんでした。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規						1					1		2
終了	1			1	1		2		1				6
利用者数	16	15	16	15	14	15	13	13	12	12	12	13	14
延件数	190	183	188	195	187	181	185	163	154	140	129	164	172
一日平均	7.3	7.0	7.2	7.2	7.2	7.0	6.9	6.5	5.9	5.8	5.4	6.1	6.6
稼働率	36.5%	35.2%	36.2%	36.1%	36.0%	34.8%	34.3%	32.6%	29.6%	29.2%	26.9%	30.4%	33.2%
減算割合	75.0%	73.3%	68.7%	73.3%	78.5%	80.0%	76.9%	76.9%	75.0%	75.0%	66.6%	61.5%	73.4%



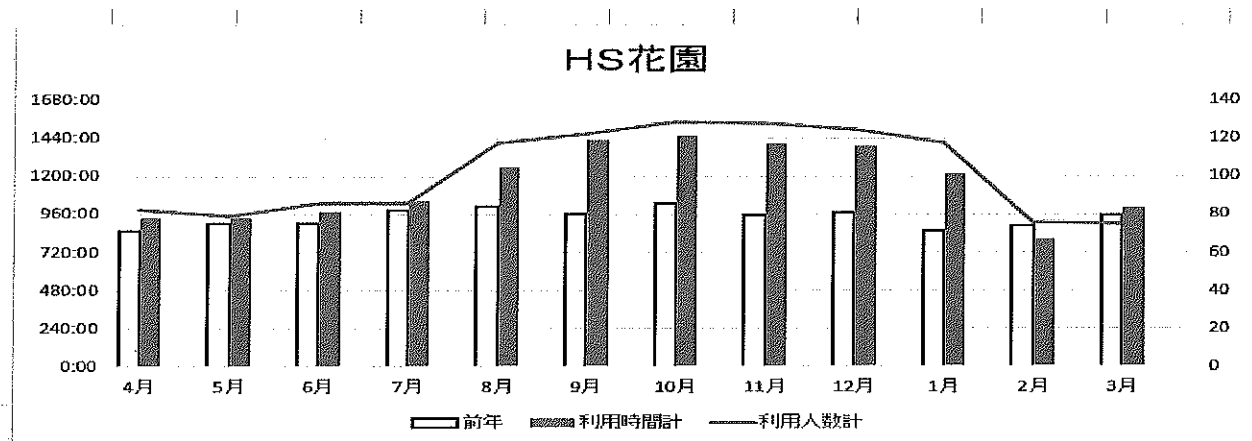
訪問介護

訪問介護全体としてコロナウィルスの基本予防対策の徹底は行っていますが、訪問先から訪問先へと移動するため、感染拡大しないか（うつす、もらう）日々不安と向き合ってきました。体温計を置いてない利用者宅の対応をどうするか、マスクを着けてもらえない、距離をとれない状況の中サービスを継続してきました。濃厚接触者が法人内に出た時には訪問介護に関わりがなくても「バイ菌持って回ってるのと違う?」と風評被害にも合うことがあります。コロナ離職で職を失ったご家族やリモート出勤で家族が在宅するのでサービスのキャンセルが出るなど利用減にもなっています。訪問介護事業所では、全員に非接触性体温計を持ってもらいサービスに入る前に健康チェックをし、マスクやプラスチック手袋、ゴーグル（メガネ）装着をお願いしています。そうすることで陽性者宅にサービスに入っても濃厚接触者にならずサービスを継続できています。

【ヘルパーステーションかわち野】

ヘルパーステーションかわち野は法人設立当初より展開している訪問介護事業所ですが、体制の不十分さから7月末で休業し、職員、利用者ともにヘルパーステーション花園に登録、契約し再開準備を進めていました。ヘルパーステーション花園が東大阪の西地域まで広範囲にサービスに入っていたこと、特養ができて本部が長瀬に移転したこと、横小路地区で管理者の配置が難しかったことなど状況から2月に長瀬本部近く再開し、利用者50名、職員7名で運営しています。横小路の時の障害利用者は花園に引き継いでいるため、障害サービスができるように届けていますが、利用者はない状況です。

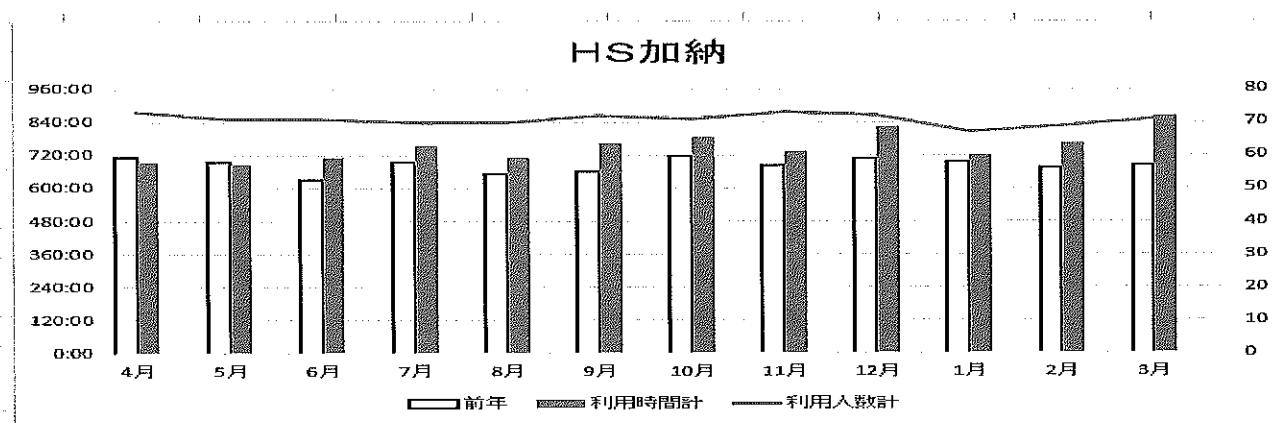
【ヘルパーステーション花園】



ヘルパーステーション花園（HS花園）は、はなぞのセンタービルの3階に事務所を構えていましたが、4月より1階に移動し訪問介護員にも立ち寄り易くなりました。6月頃よりHSかわち野（横小路）の変更に応じて、HS花園への移行を準備し、8月よりHSかわち野（横小路）休止に伴い、利用者の契約変更、職員の登録を行い対応してきました。サ責4人体制と大きな事業所になり訪問範囲も拡大しました。休止期間が最長6か月までのため、横小路でも再開を断念し長瀬でのリニューアルオープンとし、花園でのサ責を長瀬管理者として異動し配置しました。50名を長瀬に移行したため120名から75名に減らしています。サ責3名体制では、空きが増えたため新規獲得するようにし毎月新規利用者が増えています。

新型コロナウイルスでは、利用者がデイで濃厚接触者になったケースや利用者から陽性者が出て訪問介護員が濃厚接触者になったケース、家族に濃厚接触者がいてPCRの検査結果が出るまでサービスに出るのを控えたケースなど様々ありましたが、断ることなく感染対策をとって対応してきました。

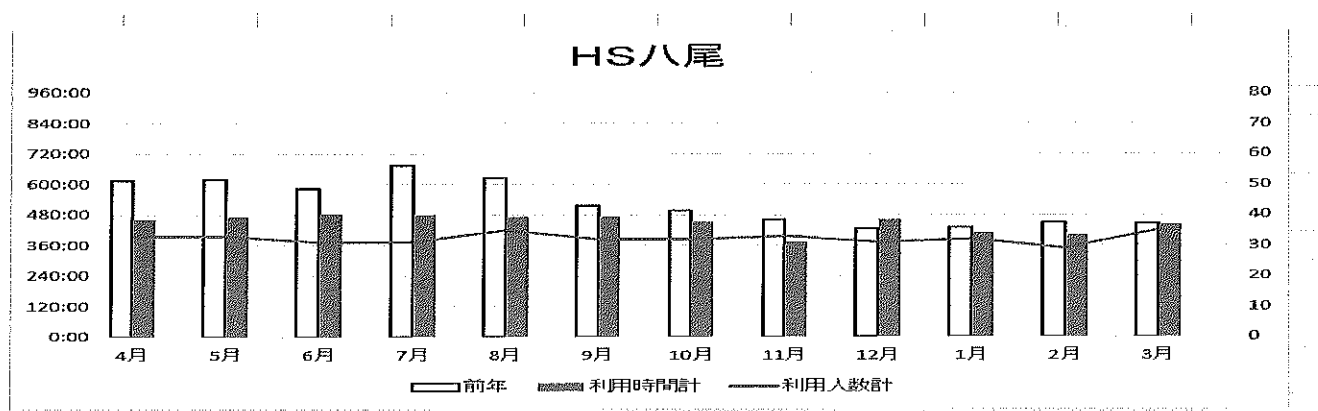
【ヘルパーステーション加納】



サ高住加納の近隣で事務所を構えていましたが、6月よりサ高住加納の施設内に移設し入居者さんの支援がしやすくなりました。新規利用者はほぼ毎月コンスタントにありましたが、シフト調整がむずかしい状況になってきましたが訪問時間数は少しずつ上がっています。管理者・サ責が事務

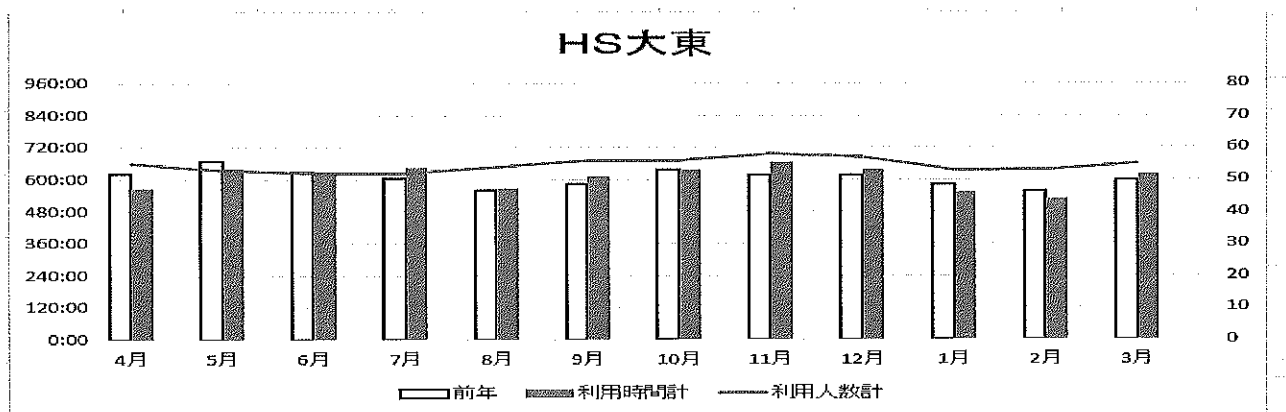
所にいない状態が続いており、スタッフとのコミュニケーション不足や管理者・サ責の細やかな配慮に欠けている事が今後の改善点です。求人活動を続け常勤職員の募集も継続していきます。

【ヘルパーステーション八尾】



2年前よりサ責1名体制のまま職員確保が難しく大きな拡大にはなっていません。登録ヘルパーさんの中にも休職者や働く時間を制限していたヘルパーさんがおり、フルで勤務ができるヘルパーもいない状況の時もありました。そのため援助をお断りしなければならないこともあり、数字を伸ばすことができませんでした。電動自転車を購入し援助に出向きやすくなりました。

【ヘルパーステーション大東】



上半期は、利用者を増やすことが出来ず、9月から徐々に新規あり時間数も増えてきていました。1月から入院、入所、死去もあり、時間数減になってしまいました。主には医療生協・ケアプランセンターさんがからの依頼は、集中減算のため増やせない状況なので、他事業への営業に力を入れ、9月からは、徐々に他事業部より新規依頼が増えて、営業の成果がありました。

徐々に職員の意識も収支へのこだわりが強くなってきました。新規獲得もありますが、身体介助の支援は、引き続き常勤職員で訪問するようにし、訪問中の利用者のサービス内容が合っているのかも考えるようになりました。その意識が少しずつですが、運営状況も赤字から黒字へと変えることが出来たと思います。

配食サービス

配食サービスでは東大阪市の委託事業から外れて3年目になり、委託金対象でほとんどが昼食だった食数が夕食の依頼が増え逆転するようになっていきます。コロナ禍でStayhomeステイホームとなりチラシの配布や営業に行き、厳しい経営状態の中でも赤字幅を減らせたセンターもありました。コロナ禍においてニュースなどで法人の方針や知識を持ってもらおうと発行したり、掲示していましたが、濃厚接触者となった利用者宅への配達を拒否する職員が出た時には、ウィルスの説明や対応方法、社会福祉法人であることなど個別に説明しました。最終的には理解を得られず、外す対応をしています。また、見守り事業である食の自立支援事業は前年度末に市の担当者と懇談を行ってから「調査する」とした結果はまだ出されていません。配達時に転倒や意識不明の状態、あるいは亡くなっていたりと様々な状況に会い、緊急先への連絡、事業所への連絡、その対応等配達に影響が減ることはありませんでした。

【配食サービス 長瀬センター】

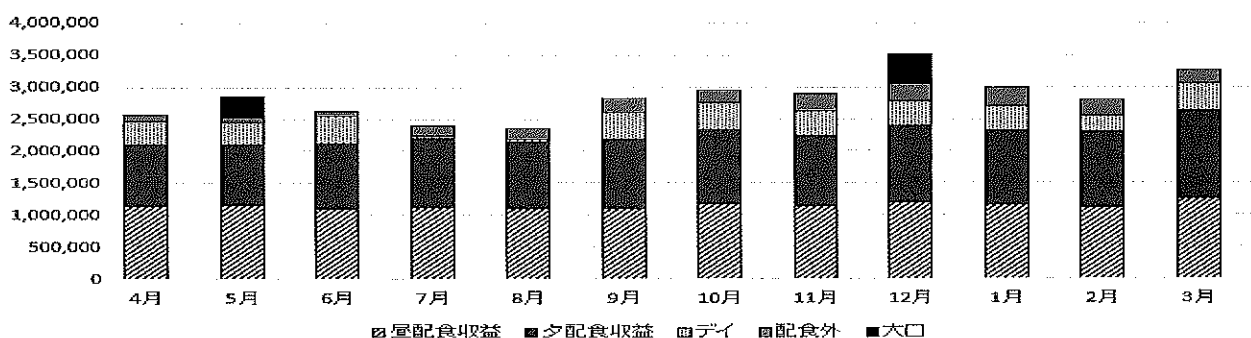
今年は新型コロナの影響を受け特別弁当の受注がほぼない中、配食外弁当を除く昼食・夕食の配食の配達件数は3月に向け合算で160食強の予算にしていたので配食のみでは近づけていると思います。年間を通して病院や訪問看護の営業を強化したことにより少しずつですが今期中頃より夕食数が昼食を上回る傾向が見られ、後半には全ての曜日において夕食数が多くなりました。

生協職員弁当の斡旋も行い、2018年迄の3倍の収益となり順調に定着しており今後は外向けにも忘年会・新年会や会議弁当に向け持ち帰り弁当の営業強化につなげたいと思っています。

4月に調理師が入職し現場での混乱やアクシデントが続出し現在も調理従事者教育と体制の課題は残っています。

営業活動は職員全体で常に意識し取り組めたと思います。コロナ対策に加え、HACCP・働き方改革PJでの職場衛生管理や害虫駆除等に取り組む1年でした。

配食長瀬



営業日数	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼食数	1,829	1,877	1,789	1,802	1,777	1,769	1,920	1,864	1,952	1,878	1,836	2,048
昼件数/日	119	113	114	108	110	106	117	127	123	122	122	120
夕食数	1,615	1,566	1,701	1,822	1,748	1,813	1,929	1,828	1,991	1,952	1,954	2,274
夕件数/日	102	94	101	100	103	103	103	111	121	123	127	128

横小路地区においては長瀬・加納と違い新型コロナウイルスの影響は少ないと思われます。ただ、職員間の情報伝達やコミュニケーション不足から営業活動等が進まず、利用数が右肩下がりになってしまった一年でした。食材仕入れ業社を一部入れ替えなど行い納入金額削減に努めました。あまり目立った成果が得られませんでした。が、原価管理ができるようになり、今後見直す予定としています。電話での利用者からの変更、クレーム対応などがスムーズに行えなかった事も利用数減少の原因だと思われます。

Figure 1: Monthly Income Components (円) for Fiscal Year 2010. The chart shows five categories of income stacked for each month from April to March. The total income fluctuates, with a peak in May and a low in January.

Month	厚生配食収益	夕配食収益	調理	配食外	大口
4月	1,100,000	750,000	100,000	50,000	0
5月	1,050,000	800,000	150,000	50,000	50,000
6月	1,000,000	750,000	100,000	50,000	0
7月	1,000,000	750,000	100,000	50,000	0
8月	950,000	750,000	100,000	50,000	0
9月	950,000	750,000	100,000	50,000	0
10月	1,000,000	750,000	100,000	50,000	0
11月	950,000	750,000	100,000	50,000	0
12月	1,000,000	750,000	100,000	50,000	0
1月	900,000	700,000	100,000	50,000	0
2月	850,000	750,000	100,000	50,000	0
3月	950,000	800,000	100,000	50,000	0

営業日数	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼食数	1,718	1,685	1,633	1,616	1,500	1,520	1,605	1,536	1,631	1,411	1,344	1,482
昼件数/日	103	104	99	93	96	94	96	100	102	98	98	92
夕食数	1,172	1,194	1,187	1,255	1,185	1,165	1,247	1,163	1,246	1,184	1,173	1,287
夕件数/日	59	63	66	63	60	71	68	69	69	74	72	70

新型コロナウイルスによりイベント弁当等がなくなりかなり苦しい年度となりました。

また加納地区の課題でもあるデイサービスかんのの利用者が減少傾向であり配食の収入においてもかなりの減収となりました。

今年度においては、配食登録者数は増えましたが平均食数を飛躍的に引き上げるまでには至りませんでした。

Figure 1: Monthly Income and Expenses (円)

Month	Income (斜線)	Daily Expenses (縦線)	Outside Expenses (横線)	Total (黒)
4月	180,000	220,000	20,000	420,000
5月	180,000	200,000	20,000	600,000
6月	180,000	220,000	20,000	420,000
7月	200,000	250,000	20,000	470,000
8月	200,000	220,000	20,000	440,000
9月	200,000	230,000	20,000	450,000
10月	200,000	270,000	20,000	490,000
11月	180,000	220,000	20,000	420,000
12月	220,000	250,000	20,000	540,000
1月	250,000	200,000	20,000	470,000
2月	250,000	180,000	20,000	450,000
3月	280,000	200,000	20,000	500,000

営業日数	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
昼食数	285	313	302	351	328	335	349	294	377	414	421	451
昼件数/日	25	22	28	24	25	28	30	25	32	33	33	30

【かわち野里ケアプランセンター】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
		実	予	実	予	実	予	実	予	実	予	実	予
予防		10	10	10	10	12	10	11	9	11	9	11	8
要介護1・2		24	27	23	27	21	28	26	28	24	29	23	29
要介護3～5		9	10	9	10	9	10	11	10	8	10	13	11
プラン計		43	47	42	47	42	48	46	47	46	48	42	47
認定調査		4	4	3	2	2	4	3	2	3	2	2	4
法人内 紹介率	HP	76.4%	66.7%	77.7%	76.6%	71.4%	73.7%	73.6%	73.7%	73.6%	73.7%	82.4%	77.8%
	DS	72.2%	68.4%	68.4%	71.1%	66.7%	61.1%	59.4%	57.9%	57.3%	57.1%	57.1%	60.0%

入院や死亡により要介護 1、2 の方の利用数が伸びませんでした。年度通して重度者の方は予算通りになりましたが、1、2 月に特養入所者が 3 名にのぼり重度者数が落ちましたが、新規や区変中の方(保留請求)で増える予定があります。予算に近づけるべく積極的に依頼があれば受託していきます。また法人内の紹介率に関しては 2 月に他事業所の訪問介護利用の方が入院し 80% 超えましたが半年の平均では問題ありませんでした。通所に関しての紹介率を上げていきたいと思っています。

【研修事業】

初任者研修を 1 回/年(9 月)の開催(定員 16 名、6 名以上で開催)を予定しましたが、コロナ禍で安全に開催する環境が作れず、受講生の確保が難しいこともあり、開催を断念しました。「今年の開催は?」「受講希望」との問い合わせをいただくこともありましたが、他校での費用が安価になってきていることなどから、無資格者(介護助手)に受講費用を補助しながら職員の確保につなげてきました。

【コロナ支援金・交付金等】

① 慰労金

「介護サービス事業所、施設等における感染症対策支援事業等及び職員に対する慰労金の支給事業」により対象期間に 10 日以上勤務した職員のうち、主たる事業所より代理受領委任により法人単位で受け取り、各々支給する(非課税所得)ということでした。濃厚接触者に対応した職員は一人 20 万円、それ以外の職員には一人 5 万円が支給され合計 2035 万+手数料 16,910 円(法人負担分 5,910 円)を 185 人の職員に支給しました。

② 東大阪市のプレミアム商品券

コロナの影響で打撃を受けた地域経済の活性化と市民の生活支援策として、9 月 1 日より全世帯

を対象に「プレミアム商品券（最大2万円、3万円分の商品券を購入できる）」が販売されました。当法人では介護サービスの利用料も対象になるため、東大阪市にある全事業所を登録し、特養やケアハウス、サ高住をはじめ、訪問介護事業や通所介護、配食サービスで、81万8千円（8/12事業所）ご利用がありました。市民生活の支援策として講じられ、全市民を対象とされ喜ばれた人もたくさんいました。しかし、一方でその商品券を購入するお金がないと利用できなかった人もいます。また、よく理解できなかった方、購入に行けなかった（歩けないなど）など、それぞれの事業所で支援する力にも差があり、十分行き届きませんでした。

2020年度かわち野福社会後援会総括

文責 かわち野福社会後援会
事務局長 市田 幸治

今年度も新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が2度にわたり発令されました。この影響で後援会の活動も自粛を余儀なくされました。各団体のイベントも中止となり活動の場面も無い状態の1年でした。そのような中でも運営員会、物販販売、寄附金、協賛金の運動は継続して行ってきました。以下に報告します。

・定例運営員会

2020年7月 8月 9月 10月 12月 2021年3月 計6回開催しました。

・物販販売

夏物販（そうめん 梅干し おかき）協力137件 売上892,900円 利益245,577円

冬物販（みかん 梅干し おかき）協力137件 売上691,600円 利益85,649円

春物販（みかん4種類）協力80件 売上249,600円 利益65,364円

利益は全額かわち野福社会へ寄付とする。

・協賛金

3000円を100名以上の目標も達成できた。

新年度についても昨年同様の活動を維持し行きたいと思っています。

また感染が治まりイベントや交流が行えるようになれば、以前のような運度、活動を展開できればと考えています。

1日も早く感染が治まるような対策を政府、自治体に具体化して頂きたいと思います。